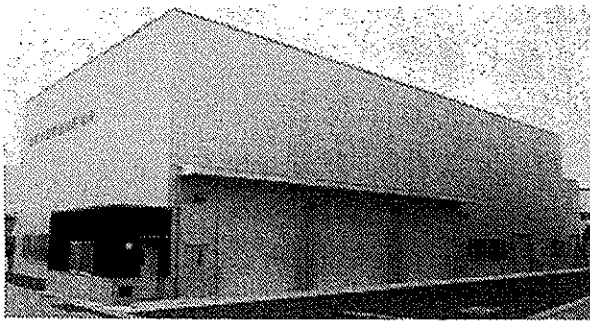


ユニゾーン メッキ処理能力増強 環境機器大型部品向け



【富山】ユニゾーン(富山市、梅田ひろ美社長、076・441・4421)は、鉛フリーの無電解ニッケルメッキの処理能力を増強する。同社第8工場(富山市)内の第1棟の隣に、大型部品向けのメッキ処理専用

ラインを持つ第2棟(写真)を新設し、6月に稼働する。

環境関連機器・装置の部品向けの表面処理需要が増えており、これに対応する。総投資額は約8億円。

第2棟の建物面積は8

14平方メートル。ここに容積4万立方メートルのメッキ槽を備えて、鉛フリーの無電解ニッケルメッキ処理を行う。メッキ槽の大きさは幅4メートル×奥行き3メートル×深さ3メートルで、処理可能な部品の重さは最大9.6トン。これにより、容積2万立方

メートルのメッキ槽を備えた第1棟と合わせて、処理能力は現在の2倍以上になる。

同社は電気メッキ、無電解ニッケルメッキなどの表面処理加工が主力。最近、太陽光発電や風力発電関連の大型部品への加工需要が急増しているほか、航空機や自動車、医療といった精密部品分野からの加工依頼にも対応するため、新工場棟の建設を決めた。